

## 内藤豊昭先生を悼む

内藤豊昭先生は2013年12月9日に逝去されました。享年70歳、定年退職まで3カ月でした。謹んでご冥福をお祈りいたします。

内藤豊昭先生は東京大学大学院理学系研究科を修了され学位を取られて、34年間にわたって本学で物理学を担当されてきました。この間、自然科学研究所長や教養教務委員長や情報科学センター運営委員など多くの要職をご担当されて必ずしも十分とは言い難い本学での教養教育・自然科学教育等の維持発展にご尽力されました。

ネットワーク情報学部への改組転換の際には創設メンバーとして経営学部から移籍なされて、学部の専門科目（「複雑システム」「プロジェクト」等）もご担当いただきご活躍なさる範囲が広がったことと思います。まだ経営学部にて在職されていた時、商品学（商学部）と化学の実験室のあった二号館地下の自然科学系教員のたまり場によく顔を出され、小生も毎週のようにお目にかかる機会があり、文系中心の私学での科学教育についてたくさんご意見をいただいたことが昨日のように思い出されます。情報科学センターの会合等でもお会いする機会が多く、当時の大型機 M280 に VP（準スパコン的に使うためのベクトルプロセッサ）がついていてもユーザがいるのか？とと思っていたところ内藤先生が主要なユーザだということを知りました（シミュレーションのための巨大なバッチジョブは CLASS=D として CPU が空いたら使う設定で一日中走らせていたと思います）。本学が研究環境としても少しは貢献できているのかとうれしくなりました。

そのようにご活躍なさっていた内藤先生に降りかかったのが Physical Review 問題でした。法人が石巻に作った新大学の方に生田で受け入れていたこの雑誌を移管してしまったのです。物理学者にとっては米国物理学会のこの雑誌に載せることが目標なのですが（内藤先生は2度掲載されています）、その雑誌が手元からなくなってしまいしばらく自分で購読せざるを得ない状態となりました。当時お聞きした「研究者をどれだけ傷つけたか分かっていない」という内藤先生の発言を本学の歴史として記しておきたいと思えます。

ネットワーク情報学部に移ってからは、「複雑システム」を社会システムや経済システムを念頭に置いたカオスからネットワークモデルまで扱う本学部の専門科目としてご担当いただいただけでなく、FD 上の工夫やプロジェクトでの学生指導から A0 入試面接に至るまで本学部を設立趣旨に沿って確立していく仲間としてご活躍されました。教授会等でも問題ある時は積極的に発言されることが少なくなかったと思います。とりわけ、前回のカリキュラム改訂で実務的・工学部的な科目を重視した際には、科学教育の立場からのご意見を何度もお伺いしました。理学と工学以来の難問ですので短期的視点やその時点の情報だけで判断してよいわけではありません。もっともっと内藤先生のご意見をお伺いしたかったというのが本当のところですが、それがもうかなわないことを悲しく思います。

大半を本学で過ごされた内藤先生には定年後も名誉教授としてまだまだご指導いただきたかった…学部を考えたときの言いようのない喪失感を記して追悼文としたいと思います。